

ぼくが防災に興味を持ったのは、朝日小学生新聞の「第一回こども会議」に参加した事がきっかけでした。津波で亡くなる人を0にするにはというテーマでみんなの意見を交換しました。その時に、イリディスの先生方のお話も聞くことができました。

中でも興味を持ったのは、地面の地層を見て過去に起きた災害を知り、今の防災に生かすという事でした。「温故知新」古い災害の地球の記憶を生かして、今に伝えていくことこそが防災都市への近道だと思いました。長野に行く機会があり、小諸市長さんから代々受け継いだという古い土砂災害の絵地図を見せてもらうことができました。昔の人も大変な土砂災害をしっかりと現代に伝えているということを知り、災害を未来へ伝えるのは僕らの使命なんだと感じました。

その後参加した防災フォーラムで、防災枠組みとは何か？思い描いた避難所を作ってみよう、災害時の外国人への対策などたくさん話し合ってきました。その中でも今村教授が「防災枠組みはいろんなルートを通して山頂を目指す登山と似ている」と聞いたぼくは、家族でいろんな山に登ることにしました。今年は南蔵王を縦走しました。山頂からは、雲海が広がり、屏風岳からは朝日連峰が見えました。そして朝日岳が次の僕の目標になりました。このことからゴールは一つではないのかなと思いました。一つの山でもたくさんのルートを通して山頂にたどり着きます。登っているうちにみえてくる周りの景色は、同じルートでも日によって変わります。防災にもたくさんの方法や意見があり、やってみないと気付かないこともあるのではないかと思います。

どんなに高い山でも一步一步足を進めれば山頂にたどり着くことができます。僕たちも、未来の防災のために一步一步前に進めたら、どんな大きな災害もきっと乗り越えられると思いました。